

2019 年度事業報告書

2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 ISAPH

1. 事業の成果

NPO 法人 ISAPH は、保健・医療分野の国際協力事業として「地域保健向上支援活動」、「災害被災地支援活動」、そして「保健人材の育成支援活動」を活動の柱として事業を推進している。「地域保健向上支援」では、主に東南アジアのラオス及びアフリカのマラウイにおいて、母子保健活動を継続している。

ラオスにおいては、ラオス中部のカムアン県サイブートン郡での活動がラオス政府との了解覚書(MOU)期間を 1 年延長し、2016 年 4 月から始まった事業は、2020 年 3 月に報告を終えた。同郡保健局のカウンターパート職員とともに地域での母子保健活動を継続しつつ、味の素財団の助成金による母子の栄養改善活動も並行して実施した。更に、住民の生活向上と地域保健の向上を目的としたリボルビングファンド(村銀行)の支援も展開した。その多面的な活動はコミュニティー開発にもつながり、ラオス保健省関係者から注目を浴びている。

また、ラオスの人材育成および交流事業として、新しく就任したサイブートン郡保健局長と、その上司にあたるサイブートン郡副知事の 2 名を日本の福岡県久留米市に招き、当法人のパートナーである社会医療法人雪の聖母会の活動について見学し、支援側・被支援側の垣根を超えた交流を図った。

マラウイでの母子保健プロジェクトは、2018 年 5 月から開始している「JICA 草の根技術協力事業(以下、JICA 草の根技協とする)」を引き続き実施した。マラウイ北部にある南ムジンバ県のマニャムラヘルスセンター管轄の 45 村・5400 世帯、計 27,000 人を対象として、母と子の栄養の問題を Food Security(Availability, Accessibility, Utilization)の観点から捉え、栄養教育と野菜・果物・家禽卵等の食品生産によって改善を目指している。保健人材の育成支援活動では、マラウイ人カウンターパート 3 名を日本に招聘し、日本の給食制度の仕組みや子どもの栄養不良を防ぐための本邦の取り組みについて研修を提供した。

なお、2020 年初旬より、世界へと流行が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、現地駐在日本人の安全に配慮して、3 月末にすべての職員を帰国させた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の事業費の金額 (単位:千円)
保健・医療分野の国際協力事業(1) 「ラオス国母子保健向上プロジェクト」	◆母子保健に関する住民への啓発活動と妊産婦と乳幼児への健康支援 ラオス中部のカムアン県サイブートン郡にて、母と子の健康を守るため、①教育啓発活動、②	(A) 2016 年 4 月～ 2020 年 3 月 (B)ラオス国	(D) ラオス国 カムアン県 サイブートン郡パーコーン村、パークワイ	853

	<p>地域ボランティアの育成、③ラオス政府と協力した母子保健サービスの提供を行った</p> <p>◆リボルビングファンドによる住民の生活向上支援 活動地域における住民による保健活動の強化のため、村に子損する基金をリボルビングファンドとして機能するよう支援した。2018年度に貸付した金額の多くが、利子を付けて返済されていることを確認した。今後は、本システムを村の住民で自立して運営していくことが目標となる。</p>	(C)6名	<p>トン村、パークワイドン村 (E) 地域住民 サイブートン郡全体： 約27,000人 パイロット地域： 約2,500人</p>	
<p>保健・医療分野の国際協力事業(2) 「ラオス国母子栄養改善プロジェクト」</p>	<p>◆栄養ボランティア育成支援 味の素財団「食と健康プログラム」国際協力支援プログラム助成金を受け、2017年4月から開始した活動。住民同士の学び合い（ピア to ピア）を促進するため、12名の母親をリクルートし、栄養教育を実施。村落栄養ボランティアとして、他者に子どもの栄養に良い行動がなにかを伝えられる人材を育成した。</p> <p>◆食糧事情改善のための家庭菜園・養殖支援 ラオスでは食料としてみとめられている昆虫を養殖し、食べたり売ったりして生活向上を目指す取り組みを展開。11名のパイロット農家が昆虫養殖に成功し、2020年度からは JICA 草の根技協として対象を拡大して継続する。</p>	<p>(A) 2017年4月～ 2020年3月</p> <p>(B)ラオス国</p> <p>(C)6名</p>	<p>(D) ラオス国 カムアン県 サイブートン郡パーコーン村、パークワイドン村、パークワイドン村 (E) 地域住民 サイブートン郡全体： 約27,000人 パイロット地域： 約2,500人</p>	2,327
<p>保健・医療分野の国際協力事業(3) 「マラウイ国母子栄養改善プロジェクト」</p>	<p>◆JICA 草の根技協の実施 2018年5月より開始した JICA 草の根技術協力事業「母と子の「最初の1000日」に配慮したコミュニティ栄養改善プロジェクト」の2年目の活動を行った。課題となっていた食料の安定確保への対処としてコミュニティ菜園整備と家畜家禽の飼育の支援を加え、栄養教育と食料の安定確保のための活動の2つの</p>	<p>(A) 2018年5月～ 2021年10月</p> <p>(B) マラウイ国 ムジンバ県</p> <p>(C)12名</p>	<p>(D) マラウイ国 ムジンバ県</p> <p>(E) エディンゲニ保健センター 管轄地域住民 約15,500人 及びマニユムラ保健センタ</p>	1,576

	活動を展開した。 ◆保健ワーカーの活動拠点建設支援 保健ワーカーの担当村での活動基盤となる住宅整備事業を継続し、6 拠点の建設を実施した。		一管轄住民 約 27,000 人	
保健・医療分野の国際協力事業(4) 「国際保健人材育成」	◆スタディツアー／インターン受け入れ 目的は、ISAPH のプロジェクトの視察や実習を通じ、開発途上国における農村住民の生活状況や保健医療の現状、そして国際協力についての理解を深めることである。 実績としては、聖マリア学院大学、東京女子医科大学、山陽女子短期大学のスタディツアーを受け入れた他、早稲田大学からは大学生のインターンを 1 名受け入れた。	(A) 2019 年 4 月～ 2020 年 3 月	(D) ラオス国 カムアン県 サイブートン郡 マラウイ国 ムジンバ県 (E) 参加者 26 名	0

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	収支計算書の事業費の金額 (単位：千円)
医師・看護師その他の保健・医療・福祉従事者の人材紹介事業	実施せず	(A) (B) (C)	
医療材料共同購入・関連サービス共同委託事業	実施せず	(A) (B) (C)	

2019年度収支決算報告

項目	金額	内容
前年度繰越金	12,008,551	
収入	4,559,674	
収入内訳	629,000	会費
	243,769	寄付金
	1,200,000	助成金・補助金
	2,434,680	事業収益(業務委託等)
	52,225	その他
支出	4,339,553	
支出内訳	3,194,119	ラオスプロジェクト
	282,169	マラウイプロジェクト
	22,971	国内事業
	699,286	管理部門
	141,008	その他(雑費・法人税等)
収支差	220,121	
2019年度末期預金額	12,228,672	

2020年度予算

項目	金額	内容
前年度繰越金	12,228,672	
収入	9,600,000	
収入内訳	650,000	会費
	250,000	寄付金
	2,200,000	助成金・補助金
	6,500,000	事業収益(業務委託等)
支出	9,600,000	
支出内訳	8,000,000	ラオスプロジェクト
	300,000	マラウイプロジェクト
	100,000	国内事業
	900,000	管理部門
	300,000	その他(雑費・法人税等)
収支差	0	
2020年度末期残高	12,228,672	

貸借対照表
2020年3月31日現在

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	7,277,844		
短期貸付金	260,914		
立替金	2,119,150		
仮払金	32,156		
未収入金	2,382,000		
流動資産合計		12,072,064	
2 固定資産			
有形固定資産			
車両運搬具	163,287		
固定資産合計		163,287	
資産合計			12,235,351
II 負債の部			
1 流動負債			
未払法人税	226,800		
流動負債合計		226,800	
負債合計			226,800
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		11,401,324	
当期正味財産増減額		607,227	
正味財産合計			12,008,551
負債及び正味財産合計			12,235,351